

しゃげうじやまいせき

社家宇治山遺跡

(海老名市No.76遺跡)

調査期間 20030303～20080509

所在地 海老名市社家 3636－
1他

時代
弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世



概要

本調査は、中日本高速道路株式会社による、東名高速道路改築に伴う事前調査として2003年3月から開始し、2008年5月まで行われました。本遺跡は、海老名市の南西部、JR相模線社家駅の北西約0.3kmに位置し、相模川左岸の沖積微高地(自然堤防)上に立地しており、遺跡の東側には後背湿地が広がっています。

中近世の遺構としては、竪穴状遺構、掘立柱建物址、井戸址、土坑、溝状遺構、ピット、畝状遺構などが発見されました。これらの遺構は、社家地区に展開していた15世紀～16世紀の屋敷地、近世の屋敷地に付随する掘立柱建物址、井戸址、屋敷を区画するための溝状遺構などと考えられます。PB5-2区の中世に属する8号溝からは、石鉢がほぼ完全な形で出土しています。

奈良・平安時代では、遺跡の北側を中心に住居址、掘立柱建物址、井戸址が多く発見されており、7世紀～8世紀に属する集落が展開していたと考えられています。東西線3区の7号溝では、覆土中から多くの遺物が出土しており、覆土下層からは、初鋳年代が765年の神功開宝が発見されました。また、遺跡の東側では、道状遺構が確認されており、8世紀前葉～10世紀前葉に相模川の自然堤防に展開していた集落の東側に造られたものと考えられます。

古墳時代～弥生時代の遺構は、竪穴住居址、方形周溝墓、溝状遺構、古墳、土坑、ピットなどが発見されています。集落は、遺跡北側の自然堤防を中心に発見されており、玉造工房址も発見されています。方形周溝墓は、これまでの調査で主に南側で多く発見されました。しかし、遺跡の北東側に位置する南北線c・d区から方形周溝墓群が見つかったことにより、墓域が北東方向に延びる可能性も考えられます。神奈川県内の低地において、古墳時代前期の方形周溝墓群が発見された数少ない貴重な事例と考えられています。

現在は、これまでの調査成果をまとめるために整理作業を行っています。



▲PB5-2区 8号溝出土石鉢



▲東西線3区 7号溝遺物出土状況



▲南北線c・d区 方形周溝墓群